

補正予算

国交省関係は2.3兆円

羽田機能強化に329億円

政府が近く国会に提出する09年度補正予算案のうち国土交通省分の概要が23日明らかになった。総額は国費ベースで2兆3321億円。羽田空港の容量拡大・機能強化に329億円を計上したほか、整備新幹線の整備に733億円、大都市圏の環状道路などの高速道路整備に1441億円を盛り込んだ。

内訳は、「安心と活力のための基盤づくり」が1兆6290億円、「住宅・土地金融の円滑化」が7030億円。後者は都市再生機構や住宅支援機構、住宅金融支援機構への支援・補助といった金融対策だが、前者はかなりの部分が工事につながる予算となる。

離国際線に就航する大型機の発着を可能にするほか、さらなる機能強化に向けた調査に着手する。整備新幹線の事業費は、北海道（新青森～新函

館、東北（八戸～新青森）、北陸（長野～金沢）、九州（博多～新八代、武雄温泉～諫早）の各区间に充てる。高速道路整備は、主要都市間を連絡する高規格道路の工事を前倒しするほか、国土開発幹線自動車道建設会議（国幹会議）を経て、東京外かく環状道路（外環道）の都内区間を整備計画区間に位置付け、着工に向けた手続きを進める。

スーパー中樞港湾の機能強化には878億円を充て、次世代高規格コンテナターミナルの整備などを推進。ファクタリング会社のリスクを軽減し、下請建設会社の資金繰りを円滑化を図る事業にも96億円を確保する。